

令和8年度 施工合理化調査説明会

令和8年5月15日

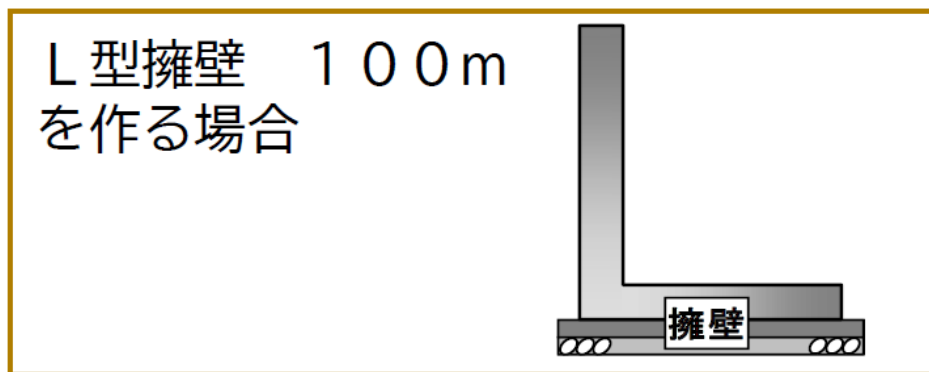
国土交通省 九州地方整備局

技術管理課 施工企画課

1. 施工合理化調査の重要性
2. 施工合理化調査の新たな取り組み
3. 施工合理化調査にあたっての注意点

1. 施工合理化調査の重要性

- **施工合理化調査は、土木工事における労務、材料、機械の運転時間等の所要量等の**施工の実態**を把握するための**重要な調査**です。**



※数量、単価はダミーにて計算しています。

コンクリート1m³単価は歩掛
で算出 (例示18,000円/m³)

世話役	0.14人	×	●●円
特殊作業員	0.40人	×	●●円
普通作業員	0.54人	×	●●円
ポンプ車運転	1.03h	×	●●円
コンクリート	1.04m ³	×	●●円

合計 1m³当たり18,000円

この所要量が歩掛

【積上積算】

基礎採石	0.5m ³ /m	×	5,000円/m ³	=	2,500円/m
均しコン	0.5m ³ /m	×	12,000円/m ³	=	6,000円/m
型枠工	8.0m ² /m	×	25,000円/m ²	=	200,000円/m
鉄筋工	1.5t/m	×	13,000円/t	=	19,500円/m
コンクリート工	5.5m ³	×	18,000円	=	99,000円/m

擁壁工 1m当たり **327,000円/m** × 100m = 32,700,000円

【歩掛の算出方法】

- 国及び県、政令市で実施している工事現場での施工実態（機械、労務、材料、日施工量等）を調査し、歩掛を作成

**歩掛を作成するために
施工合理化調査を行っています。**

①：機械

◆バックホウ ●m³
運転時間 ●h
◆トラクタ ●t
運転時間 ●h

②：労務

普通作業員 3人
特殊運転手 2人
.....

③：材料・日施工量

どんな材料をどのくらい使いましたか？

計測

土木工事標準歩掛

- ・ 労務
- ・ 材料
- ・ 機械

標準的な施工条件下での
職種・規格・所要量等

施工現場

現場の創意工夫

社会環境の変化

新技術・新工法の開発

施工形態の変化

土木工事標準歩掛は、**施工形態の変化に
即したものでなければならない！**

(例) 工種別 : 土工、基礎工、コンクリート工など

毎年

施工形態動向調査

(モニタリング調査)

- 使用機械、編成人員、日当たり施工量の変動の有無を調査

変動が
ある場合

調査年度

施工合理化調査

- モニタリング調査で変動のある工種などを対象に歩掛等の詳細を調査

詳細解析と標準歩掛制定・改定

- 変動要因等を確認し、施工の実態から歩掛を分析し改定



- 施工合理化調査等は、地方整備局等の各事務所及び都道府県等の土木事務所が担当しますが、調査の一部を受注者に委託しています。
- 調査表への記入、データ確認等に必要な費用を工事費に計上しています。
- 施工合理化調査等は工事目的物であり、成果品の1つとして、必ず提出になります。
- アンケート調査ではありません。

- 本調査は、土木工事の施工実態を把握することを目的として実施するもので、調査表については国土交通省における実態調査の目的以外には使用せず、また、国土交通省以外に提供は行わないため事実をありのまま記入してください。

2. 施工合理化調査の新たな取り組み

問い合わせ先について

- 調査表記入にあたって、質問などございましたら、受注工事の監督職員 若しくは 各工種の担当窓口等に問い合わせ願います。
- 実施要領<個別編>には、工種ごとに連絡先が記載されていますがまずは九州地方整備局の以下の窓口に気軽にご相談ください。

送付先：〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-10-7

機関名：国土交通省 九州地方整備局 企画部 施工企画課 施工係

電話番号：092(476)3547(内3472)

メー ル：qsr-sekoukikaku@ki.mlit.go.jp

施工合理化調査実施要領<個別編>にも
問い合わせ先 を記載しています。

今年度より電話番号だけでなく、**メールアドレス**
を記載しています。

調査についてご不明点があれば、是非メール
で質問願います。

【待機】

資機材の搬入待ちや、他の関連作業の進捗の都合、天候等の都合により一時的に実作業がない状態で、いつでも作業開始できる状態であること。

例：バックホウ操作中、クローラダンプの移動を待つ。

【休憩】

労働基準法第34条（※）で定義される休憩時間であり、労働時間には含まないもの。昼休みとして割り当てられることが多い。

（※）労働時間が6時間を超える場合は45分以上、8時間を超える場合は1時間以上の休憩を労働時間の途中に与えることが義務付けられている。

例：昼休みとして12:00～13:00の一時間休む。

【小休止】

後述の「熱中症予防のための休止」「各種法令・規則等に基づく休止」を除く、作業の合間の小休止。

例：一服する。

【熱中症予防のための小休止】

作業員の熱中症の予防を目的として設ける休止時間を記入する。

例：猛暑作業に伴うクールタイムを設ける。

【各種法令・規則等に基づく休止】

労働安全衛生法やその他法令・規則等に基づく、連続作業（振動工具の取扱い業務等）の抑制のための休止。

例：チェーンソー等を一定時間使用した後に休む。

・歩掛を設定する際に含まれている
(考慮されている)時間になります。

労働基準法に定義されている 労働時間に

待機

含む

休憩

含まない

小休止

含む

熱中症予防のための小休止

含む

各種法令・規則等に基づく休止

含む

始業・終業時間および作業時間

とりこわし工（人力施工） 作業日報

作業内容「1」に該当する全ての日数分を記入してください。また、作業日数が7日以上の場合にはシートをコピーしてください。

式1-3の番号を記入してください

		1			1								
		年	月	日	年	月	日	年	月	日	年	月	日
		08	04	01	08	04	02						
最高気温	使用データ(気象庁・環境省)	気象庁			気象庁								
	最寄りの地上気象観測所	福岡			福岡								
	気温(°C)又は暑さ指数(WBGT)	気温(°C)	20		気温(°C)	20							
現場始業時間(朝礼開始時間)		8	:	00	8	:	00						
現場終業時間		17	:	00	12	:	00						
待機(※)		0分			0分								
休憩		60分			0分								
小休止		30分			15分								
熱中症予防のための小休止		0分			0分								
各種法令・規則に基づく休止		0分			0分								
朝礼・KY活動・準備体操等時間		10分			10分								
準備及び後片付け		60分			60分								
資材積込・取卸		10分			10分								
集合場所から(へ)移動		0分			0分								
その他の作業(調査対象の工種以外の作業)		0分			0分								
歩掛対象時間		6:10			2:25			0:00	0:00	0:00			
とりこわし作業 ※作業時間を「分」で入力		370分	=	6.2時間	145分	=	2.4時間	=	.0時間	=	.0時間	=	.0時間
"一致"をチェック		一致			一致								
(※)待機が必要になった主な理由を記載してください。													

※一例

R8～新規項目

- 始業時刻、終業時刻が日によって異なる場合は、正確にそれらの時間を記入してください。

待機・休憩・小休止の定義は、実施要領(共通編)の「別紙1用語の定義」を必ずご確認のうえ、記載願います。

R8～新規項目

それぞれの実施内容の所要時間(1日の合計時間)を分単位で記入。

待機・休憩・小休止等の用語の定義は、**実施要領(共通編)の「別紙1用語の定義」を確認**のうえ、記載願います。

- 「待機」の時間があつた場合は、その理由を記入。

3. 施工合理化調査にあたっての注意点

調査の対象、調査期間

実施要領(個別編)表紙 ※一例

令和8年度

施工合理化調査実施要領

<個別編>

< 安定処理工 (自走式土質改良工) >

本調査は、土木工事の施工実態を把握することを目的として実施するものです。
 調査表に記載された内容については、国土交通省における実態調査の目的以外には使用しないため、事実をありのまま記入してください。
 調査表に添付された写真データについては、土木工事標準歩掛に関わる情報の共有及び提供を目的として、土木工事標準歩掛に掲載されている工種の施工方法を説明する資料などに使用する可能性があることを予め承ってください。

~~調査対象工種の施工が完了した段階で、速やかに提出願います。~~
~~なお、提出時期は本要領「3. (3) 調査表の提出」を必ずご覧ください。~~

~~安定処理工：スタビライザやバックホウにより現位置での混合作業は調査対象外。~~

~~※現歩掛の適用範囲外の土質（泥土など）も調査対象とします。~~

●調査の対象

土木工事標準歩掛の適用範囲を超える範囲においても調査対象となります。

※工種によっては一部調査対象外となる範囲もありますので、調査表や調査表と同時に配布される「調査表の要点」をご確認ください。

●調査期間

調査は、現在施工中またはこれから施工する工事を対象とし、令和9年3月31日まで。

●提出メ切

調査完了し次第、**検査日前までに、できるだけ早めのご提出をお願いいたします。**

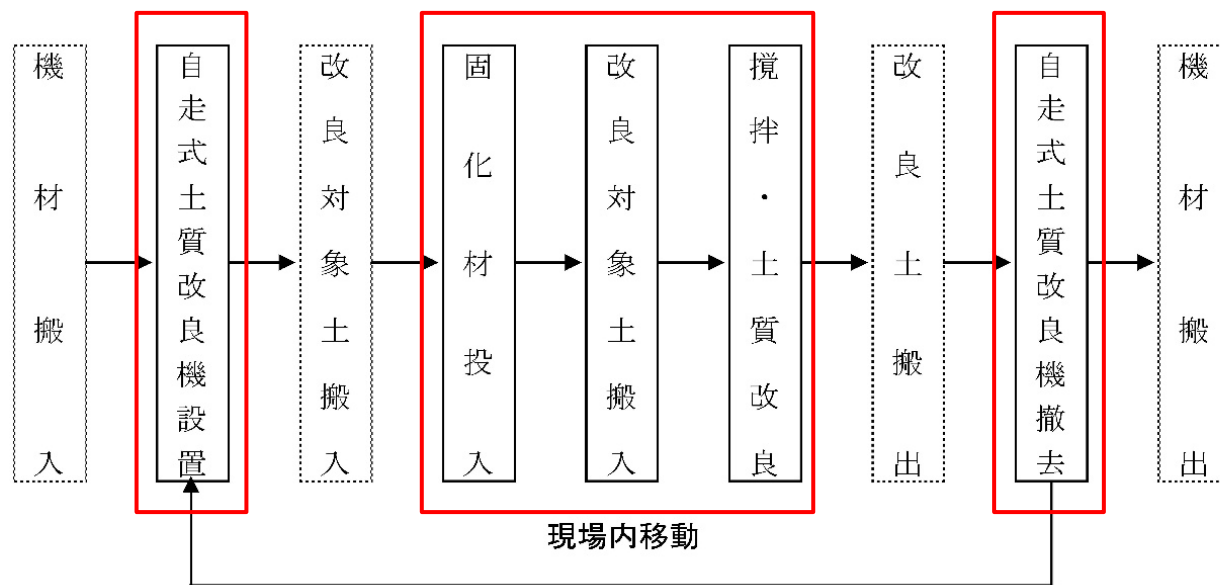
調査の対象、調査期間

●調査の対象作業範囲

対象工種の調査対象作業範囲は実施要領<個別編>に記載があります。

安定処理工(自走式土質改良工)の場合 ※一例

安定処理工(自走式土質改良工)



注) 調査対象範囲は実線部のみとする。

フローに記載の作業工程によらず、安定処理工の施工に必要な作業内容(実線部分)の全てを対象とします。

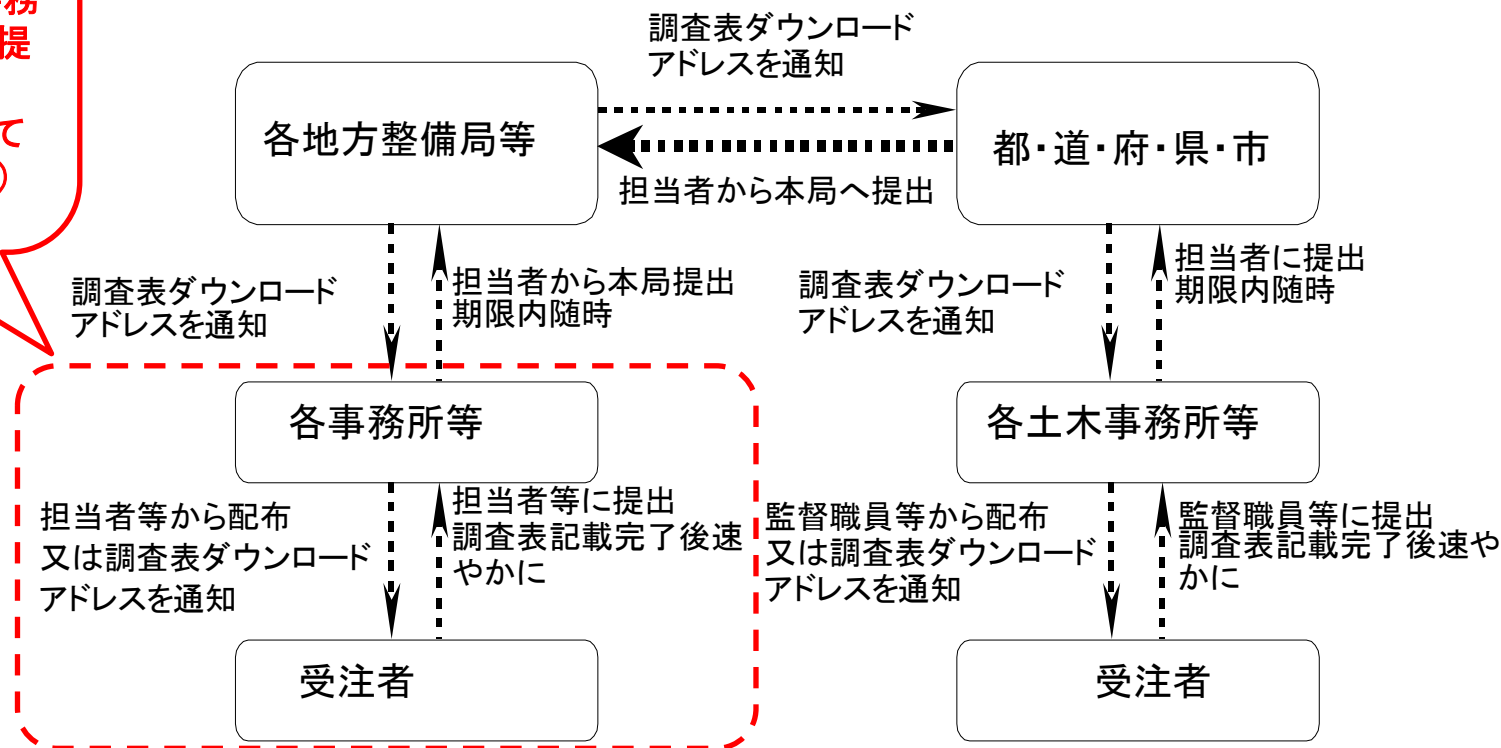
調査表の提出

●調査表の提出

調査表は、工期内の場合でも調査工種の施工が完了次第、速やかに**担当者又は監督職員に提出するものとする。**

※九州地方整備局へ直接提出されるケースが見られますが、発注事務所(監督職員等)へご提出ください。
(事務所がとりまとめてから局へ提出します)

調査表配布・提出の流れ



調査の実施および調査表の作成

■一般事項

- (1) 調査は、該当する工種の実施要領に従って行うものとする。記入は、記入例を参照して行うものとする。
- (2) 調査にあたり疑問等が生じた場合は、監督職員等の指示に従うものとする。
- (3) データの丸め方については、四捨五入を原則とする。
- (4) 日当り施工時間、日当り施工量については、小数点以下第2位を四捨五入し、小数第1位とする。
- (5) データシートが不足する場合は、複写して使用するものとする。
- (6) 機械の購入年や燃料消費量、諸雑費に含まれる機器の購入価格について、正確に記載が出来ない場合においては概算値や不明と記載する。

記入(入力)及び提出にあたっての注意事項

(1) データ入力にあたっての注意事項

① データは、原則的にセルに色が付けてある部分
() に入力する。

② のセルは、提示される選択肢の範囲から選択する。

③ 白色の部分は基本的に入力
ができません。(ロックされています。)

④ エクセルの保存形式は2007以降とする。

⑤ 数字は半角数字を用いることとする。

- 1. ロング (上下半交互併進)
- 2. ロング (上下半同時併進)
- 3. ショート (上下半交互併進)
- 4. ショート (上下半同時併進)
- 5. ミニ (補助ベンチ付き全断面)
- 6. 全断面
- 7. その他

調査表の基本的な構成

- 様式0 調査表チェック表
 調査表全体のチェックを行う。
- 様式1-● 工事概要、施工概要、現場作業内容調査表（元請・下請）
 工事全体の概要、施工概要及び現場作業内容の概要の調査を行う。
- 様式2 使用機械・器具調査表
 使用した機械・器具について調査を行う。
- 様式3 使用材料・消耗品調査表
 使用した材料、損耗材料などについて調査を行う。
- 様式4 作業工程表
 調査対象工種の作業月日及び従事した人数について調査を行う。
- 様式5-● 作業日報（長期調査表）
 作業を行った日の施工について調査を行う。
- 様式6-● 1日当り作業歩掛調査表（短期調査表）
 平均的な作業を実施した任意の3日間（前期・中期・後期）について調査を行う。
- 様式7 施工概要図
 施工概要図及び平面図、標準断面図について調査を行う。
- 様式8 施工状況写真
 使用機械や作業状況の写真を添付する。
- 様式9 アンケート調査表
 過去に取り組んだ調査対象工種の実態について調査を行う。

※あくまで基本的な構成を示しています。工種によって異なります。

様式0 調査表チェック表

様式0 調査表チェック表

※一例

・発注者側も確認を行うために
チェック欄を設けています。

チェック事項
調査表の提出にあたって、調査表の内容についてチェックの上口にレ点を記入する。
（□にマウスカーソルを持っていき、クリックするとレが記入されます。）

発注者欄	受注者欄	チェック事項
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	添付資料（施工計画書、数量見積書、写真、図面等）は添付されているか。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	様式1-1～1-4 工事概要調査表 ・調査担当者の氏名及び連絡先は記入されているか。 ・施工概要の必要事項が記入されているか。 ・その他必要事項が全て記入されているか。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	様式2 使用機械・器具調査表 ・使用した機械（1台ごと）、器具（1台ごと）について全て記入されているか。 ・その他必要事項が全て記入されているか。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	様式3 使用材料調査表 ・使用材料及び消耗品が全て記入されているか。 ・その他必要事項が全て記入されているか。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	様式4 作業工程表 ・全調査対象日について記入されているか。 ・⑤作業に従事した総人数（人）は記入されているか。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	様式5-1～5-2 作業日報 ・全調査対象日について記入されているか。 ・作業工程ごとに作成されているか。 ・施工出来形は記入されているか。 ・労務は作業員ごとに全作業期間記入されているか。 ・労務は作業員ごとに略称、年齢、経験年数が記入されているか。 ・機械名、規格は様式2と整合がとれているか。 ・材料名、規格は様式3と整合がとれているか。 ・その他必要事項が全て記入されているか。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	様式6-1～6-2 1日当り歩掛調査表 ・作業工程に該当する労務、機械が記入されているか。 ・作業工程ごとに作成されているか。 ・労務は作業員ごとに職種、10分ごとの作業内容が記入されているか。 ・その他必要事項が全て記入されているか。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	様式7 施工概要図（概要図・平面図・標準断面図） ・施工概要図、平面図及び標準断面図が貼付されているか。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	様式8 施工状況写真 ・写真が貼付されているか。（カラーコピーは不可）
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	様式9 自走式土質改良アンケート調査表 ・アンケートの必要事項が全て記入されているか。

調査表と合わせて、**施工計画書等の添付資料（PDFデータ等でOK）も提出**をお願いします。

※必要な添付資料は工種により異なります。詳細は実施要領（個別編）をご確認ください。

調査表の記入後は、記入漏れがないかどうか、受注者欄にチェックを行ってください。

☆チェックに際して、再度記載内容を確認しながらチェックを行ってください。

様式1-1 工事概要調査表

様式1-1 工事概要調査表

1. 工事全般（発注者記入欄）

資料番号は記入しない。

① 省名等	04: 国土交通省 (河川・道路等)	② 局名等	九州地方整備局	資料番号	
③ 発注事務所名	福岡国道事務所				
④ 工事名	地盤改良工事				
⑤ 施工箇所	2 1.河川 2.道路 3.その他 ④ その他の場合				
⑥ 工期	自: 令和 8 年 1 月 28 日 ~ 至: 令和 9 年 1 月 28 日				
⑦ 積算内訳	DID地区の適用: 無		大都市補正の適用: 無		夜間作業の適用: 無
	日当たり施工量補正の適用: 無		時間的制約の適用: 無		施工箇所所在の適用: 無
積算工程: 道路改良工事					
⑧ 請負金額	50,000 千円				
⑨ 調査担当者先	氏名	土木太郎		官署	00路所
	TEL	000	- 0000	- 0000	所属部署 土木部
	E-Mail	00000@			

※一例

発注者記入欄は、受注者から調査表を受け取ったあと、発注者が記入します。

・記入の必要はございません。

2. 工事概要（受注者記入欄）

① 工事概要	当該作業期間	自: 令和 8 年 1 月 28 日 ~ 至: 令和 9 年 1 月 28 日			施工日数	300 日
	工法名	00工法		NETIS登録番号	0S-00000-VE	
	工法選定理由	経済性が向上するため。				
② 就業実態	6	1. 4週8休 2. 4週7休 3. 4週6休 4. 4週5休 5. 4週4休 6. その他				
	その他の場合 (4週9休)		標準的な作業時間帯: 8:00 ~ 17:00			
	1日当たり平均的な労働時間: 7.50 時間		1週間当たり平均的な労働時間: 32.00 時間			
③ 現場条件	施工箇所	現場発生土のストックヤード				
	特筆すべき施工条件等 (ヤード2か所あり、公道を横断する必要あり。)					
④ 施工障害	1. 施工時間の制約:	無	2. 夜間作業:	無	3. DID区間:	無
	4. 人家連担:	無	5. 環境対策(騒音・振動):	無	6. 交通規制:	無
	7. 作業ヤード狭隘:	無	8. 現場不連続:	無	9. 川岸直近:	無
	11. 構築物等障害:	無	12. 資材の供給遅れ(施工者の責によらないものに限る):	無	対象資材の遅れの理由	
	13. 機械の搬入・搬出遅れ(施工者の責によらないものに限る):	無	対象機械の遅れの理由			
14. その他	有	その他の具体的な障害・制限の内容 ダンプの往来が多いため、ヤード付近の公道については散水車による清掃が必要。				
⑤ 調査担当者先	氏名	土木太郎		会社名	00建設	
	TEL	000	- 0000	- 0000	所属部署	工事部
	E-Mail	0000@		施工業者区分	1. 元請け 2. 下請け	
⑥ 特記事項						

工事全体の概要（工事概要、就業実態、現場条件、施工障害、調査担当者連絡先）について記入してください。

工事概要等は、元請けが記入すること。

・施工障害が有る場合は必ず記載。
(施工状況を確認するため、施工計画書を必ず添付すること。)

様式1-2 施工概要調査表

様式1-2 施工概要調査表

※一例

※安定処理工(自走式土質改良工)の場合

3. 施工概要

① 調査対象範囲	施工土量 4,500 m ³ (施工土量は地山土量とする。)						
② 作業の施工数量と作業期間	建設発生土の土質区分		施工量(地山土量)		施工日数	礫の混入の有無	礫の最大径
	I	レキ質土	1000	m ³	10 日		100 mm
	II	砂及び砂質土	1000	m ³	10 日		150 mm
	III	粘性土	1000	m ³	10 日		150 mm
	IV	泥土	1000	m ³	10 日		200 mm
	V	その他 (泥土+レキ)	500	m ³	5 日		250 mm
施工量および施工日数は、土質区分(I、II、III、IV、V)ごとの合計とする。							
土質区分I レキ質土 詳細	改良材使用量	設計数量	10	t	標準添加量	10	kg/m ³
		使用数量	12	t			
	改良土の仮置き	1	1.可能 2.不可				
	玉石等の除去作業	1	1.あり 2.なし				
	自走式改良機の台数	1	台				
	改良機の現場内移動	1	1.あり 2.なし				
ありの場合の移動回数	1	回	総移動距離	0.5	m		
土質区分II 砂及び砂質土 詳細	改良材使用量	設計数量	10	t	標準添加量	10	kg/m ³
		使用数量	15	t			
	改良土の仮置き	1	1.可能 2.不可				
	玉石等の除去作業	1	1.あり 2.なし				
	自走式改良機の台数	1	台				
	改良機の現場内移動	2	1.あり 2.なし				
ありの場合の移動回数	0	回	総移動距離	0	m		
③ 土質区分III 粘性土 詳細	改良材使用量	設計数量	15	t	標準添加量	15	kg/m ³
		使用数量	20	t			
	改良土の仮置き	1	1.可能 2.不可				
	玉石等の除去作業	2	1.あり 2.なし		平均含水比	30	%
	自走式改良機の台数	1	台		最大含水比	50	%

対象工種の施工概要について記入してください。

※工種によって調査内容が異なります。

・土質条件等がある場合はN値・含水比等が未記入のケースが見られるため、注意願います。

様式1-2 施工概要調査表(施工箇所別)

※一例 ※法面工(吹付法面とりこわし工)の場合

様式1-3 施工概要調査表(施工箇所別集計)

4. 施工概要(施工箇所ごと)

施工箇所番号		1	2	3	
①調査対象範囲	施工面積	とりこわし総面積	10 m ²	m ²	m ²
		うち人力によるとりこわし施工面積	5 m ²	m ²	m ²
		うち機械によるとりこわし施工面積	5 m ²	m ²	m ²
	法面形状	施工延長(m)	15 m	m	m
		平均施工法長(m)	5 m	m	m
		平均施工高さ(m)	3 m	m	m
	吹付厚さ	厚さ(cm)	8 ~ 10 cm	~ cm	~ cm
		平均厚さ(cm)	10 cm	cm	cm
	とりこわし法面の吹付材料		モルタル	-	-
	上記でその他を選択した場合 吹付材料を記入→				
	法面の土質		レキ質土	-	-
	上記でその他を選択した場合 土質を記入→				
	発注形態		仮設法面もとりこわしのみ	-	-
	作業形態		全面とりこわし	-	-
	施工方法		人力+機械	-	-
	上記で機械を選択した場合の機械による とりこわし時の施工基面からの最大高さ		m	m	m
上記で人力+機械を選択した場合の機械による とりこわし時の施工基面からの最大高さ		2 m	m	m	
平均法面勾配		1 : 4	1 :	1 :	
仮設ロープの有無		あり	-	-	

工種によっては、施工箇所毎、作業内容毎に概要を記入いただく工種もあります。

様式1-3 【現場作業内容調査表(元請・下請)】

調査工種名	自走式土質改良工				
省名等	04:国土交通省(河川・道路等)	直轄補助	直轄	(直轄又は補助を選択する)	
局名等	九州地方整備局	就業実態	4週8休	(就業実態を選択する)	
工事名	地盤改良工事				
現場状況	施工時間制約	夜間作業	DID区間	人家連担	
	交通規制	環境対策	作業ヤード狭隘	現場不連続	
	構造物等障害	資材供給遅れ	機械搬入搬出遅れ		
	その他	○	その他内容	ダンプの往来が多いため、ヤード付近の公道については散水車による清掃が必要。	
都道府県名	福岡県	(施工地域の都道府県を選択する)			
②工事種別	道路改良	(工事区分(レベル1)を選択する)			
始業時 ～ 実業時 (実作業以外の作業)	会社又は資材庫に集まって現場へ移動(分)		移動有無	無	(通勤は対象外)
	準備体操、KY活動、作業指示等(分)	5			
	作業準備(資材積込含む)(分)※	5	※作業準備と資材積込みを並行で作業する場合は、長いほうの所要時間とする		
	その他作業【ICT機器の保守点検(分)】	0			
	その他作業【機械点検等(分)】	0			
	その他作業【待機(分)】	0			
	その他作業【休憩(分)】	60			
	その他作業【小休止(分)】	30			
	その他作業【熱中症予防のための小休止(分)】	0			
	その他作業【各種法令・規則等に基づく休止(分)】	0			
③作業時間	その他の作業1(分)【自由記入】	0	その他の作業1内訳		
	その他の作業2(分)【自由記入】	0	その他の作業2内訳		
	その他の作業3(分)【自由記入】	0	その他の作業3内訳		
	その他の作業4(分)【自由記入】	0	その他の作業4内訳		
	合計	100			
終業時	後片付け(資材積込含む)(分)※	10	※後片付けと資材積込みを並行で作業する場合は、長いほうの所要時間とする		
	現場から会社又は資材庫へ移動(分)		移動有無	無	
	会社又は資材庫での資材取卸(分)	5			
	作業指示(分)※翌日作業分	5			
	その他作業【ICT機器の保守点検(分)】	0			
	その他作業【機械点検等(分)】	0			
	その他の作業1(分)【自由記入】	0	その他の作業1内訳		
	その他の作業2(分)【自由記入】	0	その他の作業2内訳		
	その他の作業3(分)【自由記入】	0	その他の作業3内訳		
	その他の作業4(分)【自由記入】	0	その他の作業4内訳		
合計	20				

・代表的な1日の始業時・終業時の作業に要した時間を記入願います。

※元請用と下請用があります(調査項目は同じ)。
下請業者がいる場合は、下請用にも記入ください。

始業時
・「会社又は資材庫に集まって現場へ移動」した場合は、「移動有無」を【有】とし移動時間を記載願います。

R8～新規項目
待機・休憩・小休止等の用語の定義は、実施要領(共通編)の「別紙1用語の定義」を確認のうえ、記載願います。

終業時
・「資材庫へ移動」がある場合は、「移動有無」を【有】とし、移動時間を記載願います。
・「資材取卸」に要した時間も記載願います。

・調査表に記載のない作業は「その他の作業」に記載願います。
・なお、作業内容は「その他の内訳に作業内訳」に記載願います。

待機・休憩・小休止の定義は、実施要領(共通編)の「別紙1用語の定義」を必ずご確認のうえ、記載願います。

様式2 使用機械・器具調査表

対象工種の施工において使用したすべての機械・器具を把握。

※一例

当該工種に使用した機械、器具等についてご記入下さい。
 ※使用機械・器具1台ごとに、機械器具番号を分けて記入して下さい。
 (⑬作業内用別にそれぞれ記入してください。)
 ※他工種で使用した機械、器具等は記入しないで下さい。

⑭機械選定理由
 ア. 特記仕様書の指示であるため使用した。
 イ. 損料機械であるため使用した。
 ウ. 工期短縮のため大型機械を使用した。
 エ. 施工方法に見合った機械を選定した。
 オ. 施工量に見合った機械を選定した。
 カ. 調達が安易であるため使用した。
 キ. 賃料費用が安価なため使用した。
 ク. その他()
 ケ. その他()
 コ. その他()

注)①機械・器具名の記入欄が赤色表示されている場合、⑧数量が未入力ですので、数量をご入力ください。

① 機械 器具 番号	② 機 械 ・ 器 具 名	③ 規 格	④ メーカ-名	⑤ 型 式	⑥ 排ガス基準	⑦ ⑤' 選定理由	⑧ ⑥' 選定理由	⑨ 単 位	⑩ 数 量	⑪ ⑨' 保有形態	⑫ 供用日数	⑬ 運 転 日 数	⑭ 総運転時間	⑮ 日当たり 運転時間	⑯ 機 械 選 定 理 由	⑰ 給油状況	⑱ 作 業 内 容	
1	自走式土質改良機	【解砕・固化材混合式】通称 20t級	〇〇会社	〇〇-〇〇	3次基準値	発注者指定	低騒音型	発注者指定	台	1	損料	20 日	15 日	90 h	6.0 h/日	エ	ローリー	土質改良
2	自走式土質改良機	【解砕・固化材混合式】通称 10t級	〇〇会社	〇〇-〇〇	3次基準値	発注者指定	低騒音型	発注者指定	台	1	損料	20 日	15 日	90 h	6.0 h/日	エ	ローリー	土質改良
3	バックホウ(クローラ型)	標準型 バケット容量 0.8m ²	〇〇会社	〇〇-〇〇	3次基準値	発注者指定	低騒音型	発注者指定	台	1	損料	20 日	15 日	90 h	6.0 h/日	エ	ローリー	土質改良
4	バックホウ(クローラ型)	標準型 バケット容量 0.8m ²	〇〇会社	〇〇-〇〇	3次基準値	発注者指定	低騒音型	発注者指定	台	1	損料	20 日	15 日	90 h	6.0 h/日	エ	ローリー	土質改良
5	バックホウ(クローラ型)	標準型 バケット容量 0.45m ²	〇〇会社	〇〇-〇〇	3次基準値	発注者指定	低騒音型	発注者指定	台	1	損料	10 日	15 日	90 h	6.0 h/日	エ	ローリー	土質改良
6								台			日	日	h	h/日				
7								台			日	日	h	h/日				
8								台			日	日	h	h/日				

自由記入欄

• あらかじめ記載されていない機械や、プルダウンの中に一致する規格が無い場合は、自由記入欄に記入してください。

• 排ガス基準（第●次基準、オロード法●●年基準）および低騒音型機械については、実施要領（共通編）の「別紙1用語の定義」に詳細を記載しています。



様式2 使用機械・器具調査表

対象工種の施工において使用したすべての機械・器具を把握。

※一例

当該工種に使用した機械、器具等についてご記入下さい。
 ※使用機械・器具1台ごとに、機械器具番号を分けて記入して下さい。
 (⑬作業内用別にそれぞれ記入してください。)
 ※他工種で使用した機械、器具等は記入しないで下さい。

⑭機械選定理由
 ア. 特記仕様書の指示であるため使用した。
 イ. 損料機械であるため使用した。
 ウ. 工期短縮のため大型機械を使用した。
 エ. 施工方法に見合った機械を選定した。
 オ. 施工量に見合った機械を選定した。
 カ. 調達が安易であるため使用した。
 キ. 賃料費用が安価なため使用した。
 ク. その他()
 ケ. その他()
 コ. その他()

注)①機械・器具名の記入欄が赤色表示されている場合、⑧数量が未入力ですので、数量をご入力ください。

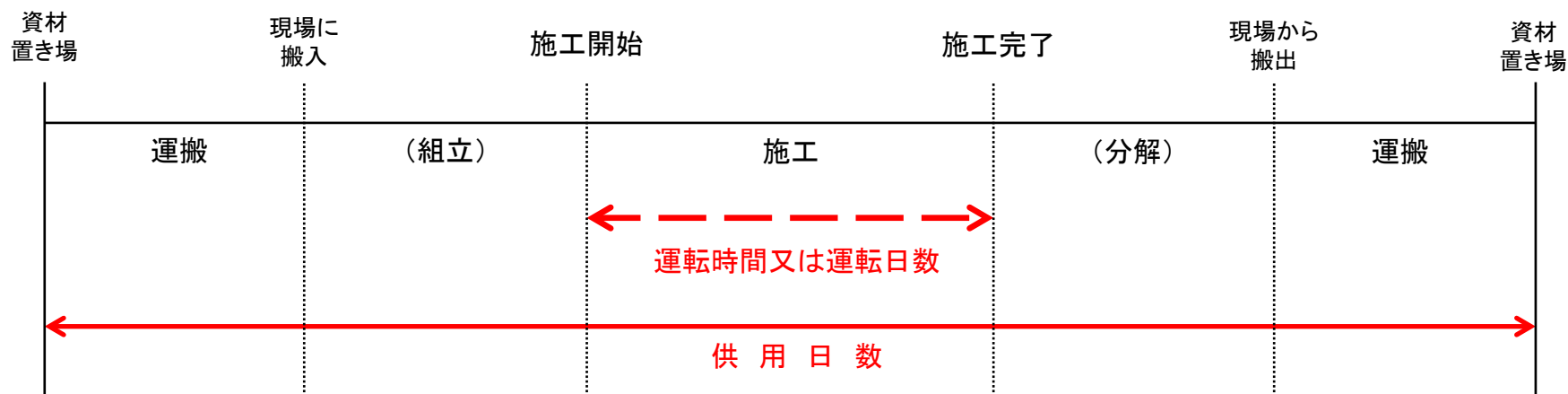
① 機械器具番号	② 機械・器具名	③ 規 格	④ メーカー名	⑤ 型式	⑥ 排ガス基準	⑦ ⑤選定理由	⑧ ⑥選定理由	⑨ 単位	⑩ 数量	⑪ 保有形態	⑫ 供用日数	⑬ 運転日数	⑭ 総運転時間	⑮ 日当たり運転時間	⑯ 機械選定理由	⑰ 給油状況	⑱ 作業内容	
1	自走式土質改良機	【解砕・固化材混合式】通称 20t級	〇〇会社	〇〇-〇〇	3次基準値	発注者指定	低騒音型	発注者指定	台	1	損料	20 日	15 日	90 h	6.0 h/日	エ	ローリー	土質改良
2	自走式土質改良機	【解砕・固化材混合式】通称 10t級	〇〇会社	〇〇-〇〇	3次基準値	発注者指定	低騒音型	発注者指定	台	1	損料	20 日	15 日	90 h	6.0 h/日	エ	ローリー	土質改良
3	バックホウ(クローラ型)	標準型 バケット容量 0.8m ³	〇〇会社	〇〇-〇〇	3次基準値	発注者指定	低騒音型	発注者指定	台	1	損料	20 日	15 日	90 h	6.0 h/日	エ	ローリー	土質改良
4	バックホウ(クローラ型)	標準型 バケット容量 0.8m ³	〇〇会社	〇〇-〇〇	3次基準値	発注者指定	低騒音型	発注者指定	台	1	損料	20 日	15 日	90 h	6.0 h/日	エ	ローリー	土質改良
5	バックホウ(クローラ型)	標準型 バケット容量 0.45m ³	〇〇会社	〇〇-〇〇	3次基準値	発注者指定	低騒音型	発注者指定	台	1	損料	10 日	15 日	90 h	6.0 h/日	エ	ローリー	土質改良
6								台			日	日	h	h/日				
7								台			日	日	h	h/日				
8								台			日	日	h	h/日				

自由記入欄

• 規格の未記入が多いです。
記載漏れがないように注意してください。

• 供用日数と運転日数は異なるため、注意して記入してください。
 (詳細は次ページ)

供用日数・運転時間(日数)の考え方



運転時間

- ① 機械の実作業時間
- ② 目的作業のための自走時間
- ③ 目的作業に伴うエンジンの空転時間
- ④ 組み合わせ施工における一時的な作業待時間等

運転日数

- ① 運転時間の多少にかかわらず、作業のために機械が実際に運転される日

供用日数

- ① 機械の運転日
- ② 土・日曜、祝祭日等で作業休止の日
- ③ 悪天候作業のできない日
- ④ 工事現場における機械の整備、修理または消耗部品交換の日
- ⑤ 工事現場における機械の組立または分解の日
- ⑥ 法令の規定、契約による約定その他工事施工上の必要または工事注文者の都合によって、機械が工事現場に拘束される日
- ⑦ 搬入・搬出に要する日数

様式2 使用機械・器具調査表

対象工種の施工において使用したすべての機械・器具を把握。

・ア～キに該当しない場合は必ず記入してください。

※一例

当該工種に使用した機械、器具等についてご記入下さい。
 ※使用機械・器具1台ごとに、機械器具番号を分けて記入して下さい。
 (⑯作業内用別にそれぞれ記入して下さい。)
 ※他工種で使用した機械、器具等は記入しないで下さい。

注)①機械・器具名の記入欄が赤色表示されている場合、⑧数量が未入力ですので、数量をご入力ください。

⑭機械選定理由

ア. 特記仕様書の指示であるため使用した。
 イ. 損料機械であるため使用した。
 ウ. 工期短縮のため大型機械を使用した。
 エ. 施工方法に見合った機械を選定した。
 オ. 施工量に見合った機械を選定した。

カ. 調達が安易であるため使用した。
 キ. 賃料費用が安価なため使用した。
 ク. その他()
 ケ. その他()
 コ. その他()

① 機械 器具 番号	② 機 械 ・ 器 具 名	③ 規 格	④ メーカ ー 名	⑤ 型 式	⑥ 排ガス基準	⑦ ⑤選定理由	⑧ 低騒音・低振動 型指定機械	⑨ ⑥選定理由	⑩ 単 位	⑪ ⑧数量	⑫ ⑨保有 形態	⑬ ⑩供用日数	⑭ ⑪運転日数	⑮ ⑫総運転時間	⑯ ⑬日当たり 運転時間	⑰ ⑭機械選定 理由	⑱ ⑮給油状況	⑲ ⑯作業内容
1	自走式土質改良機	【解砕・固化工材混合式】通称 20t級	〇〇会社	〇〇-〇〇	3次基準値	発注者指定	低騒音型	発注者指定	台	1	損料	20 日	15 日	90 h	6.0 h/日	エ	ローラー	土質改良
2	自走式土質改良機	【解砕・固化工材混合式】通称 10t級	〇〇会社	〇〇-〇〇	3次基準値	発注者指定	低騒音型	発注者指定	台	1	損料	20 日	15 日	90 h	6.0 h/日	エ	ローラー	土質改良
3	バックホウ(クローラ型)	標準型 バケット容量 0.8m ²	〇〇会社	〇〇-〇〇	3次基準値	発注者指定	低騒音型	発注者指定	台	1	損料	20 日	15 日	90 h	6.0 h/日	エ	ローラー	土質改良
4	バックホウ(クローラ型)	標準型 バケット容量 0.8m ²	〇〇会社	〇〇-〇〇	3次基準値	発注者指定	低騒音型	発注者指定	台	1	損料	20 日	15 日	90 h	6.0 h/日	エ	ローラー	土質改良
5	バックホウ(クローラ型)	標準型 バケット容量 0.45m ²	〇〇会社	〇〇-〇〇	3次基準値	発注者指定	低騒音型	発注者指定	台	1	損料	10 日	15 日	90 h	6.0 h/日	エ	ローラー	土質改良
6									台			日	日	h	h/日			
7									台			日	日	h	h/日			
8									台			日	日	h	h/日			

自由記入欄

・記入漏れが多いので注意してください。

・総運転時間は、単純に機械を運転している時間を記入してください。
 ・単純に機械運転日数×8hで算出している事例が見受けられます。
準備・後片付け・KY等を除いた機械の運転時間を記載する。

・供用日数と運転日数は異なるため、注意して記入してください。
 (詳細は次ページ)

・規格の未記入が多いです。
記載漏れがないように注意してください。

様式3 使用材料・消耗品調査表

対象工種の施工において使用したすべての材料（使用材料、
 損耗材料、仮設材料等）を把握。

※一例

⑧ 材料選定理由

ア. 各技術基準等を準拠し選定した。	カ. 特記仕様書の指示であるため使用した。
イ. 手持ちの材料があったため使用した。	キ. 費用が安価だったので使用した。
ウ. 調達が容易だったので使用した。	ク. その他()
エ. 品質確保するために使用した。	ケ. その他()
オ. 発注者からの指示であるため使用した。	コ. その他()

自由記入

選定理由一覧

• 各材料の設計数量と使用数量の記入漏れが多いため、きちんと記入してください。

• その材料を選定した理由を、選定理由一覧から選択してください。

• あらかじめ記載されていない材料については、自由記入欄に記入してください。

1. 使用した材料の内訳 当該工種に使用した材料についてご記入下さい。 ※他工種で使用した材料は記入しないで

材料番号	① 材 料 名	② 規 格	③ メーカー名	④ 型 式	⑤ 単 位	⑥ 設計数量	⑦ 使用数量	⑧ 材料選定理由	⑨ 備 考
【自走式土質改良機設置・撤去】									
1	〇〇材（設置撤去用）	〇〇×〇〇	〇〇会社	〇〇	個	1.0	1.0	7	
2									
3									
4									
5									
【土質改良工】									
1	固化材（フレコンバッグ）	石灰	〇〇会社	〇〇	kg	1.0	1.0	7	
2	固化材（バラ）	セメント系	〇〇会社	〇〇	kg	1.0	1.0	7	
3									
4									
5									

2. 仮設材等の内訳 当該工種に使用した材料についてご記入下さい。 ※他工種で使用した材料は記入しないで

材料番号	① 材 料 名	② 規 格	③ メーカー名	④ 型 式	⑤ 単 位	⑥ 設計数量	⑦ 使用数量	⑧ 材料選定理由	⑨ 備 考
1									
2									
3									

3. 自走式土質改良機損耗材料費

部品番号	部品名等	規 格	総施工土量 4500 m3当り			
			数量	単位	価格	修理理由等
1	ハンマ	〇〇×〇〇	1	個	〇〇	〇〇
2	カッタ	〇〇×〇〇	1	個	〇〇	〇〇
3	パドル	〇〇×〇〇	1	個	〇〇	〇〇
4	ベルトコンベア	〇〇×〇〇	1	個	〇〇	〇〇
5	フィルタ	〇〇×〇〇	1	個	〇〇	〇〇
6						
7						

• 記入漏れが多いので注意してください。

様式4 作業工程表

対象工種の全作業期間における各月の作業月日、日々の作業内容、作業人数を把握。

作業年月に数値を入力すると、作業月日が自動で表示される。

		①作業年月				2026 年 8 月												
		②作業月日		8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13		
③作業内容		(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)			
④ 作 業 区 分	1. 自走式土質改良機設置・撤去					○						○						
	2. 土質改良工							○	○	○								
	3.																	
	4.																	
	5.																	
	6.																	
	7.																	
	8.																	
	9.																	
	10.																	
	11.																	
	12.																	
	13.																	
	14.																	
	15.																	
⑤ 作業に従事した総人数(人)						4	4	4	4	4								

※一例

作業を行った日に「○」を記入する。

土、日、祝日も作業した場合、記入する。

上記作業内容以外のものがある場合にはそれも記入する。

1日で作業に従事した総人数を記載する。

様式5 作業日報(長期調査表) ※14ページと同じ調査項目です。 国土交通省

当該工種の作業期間における工種の労務実態、機械・器具使用実態、材料使用実態を把握。

・作業内容毎にシートが分かれていますのでご注意願います。
(未実施の作業については記入不要)

・様式1-2の施工箇所毎調査において、複数の施工箇所がある場合は、施工箇所の番号を記入

様式5-1 とりこわし工(人力施工) 作業日報

※様式4の作業内容「1」に該当する全ての日数分を記入してください。また、作業日数が7日以上の場合にはシートをコピーしてください。

※一例

0. 施工箇所番号(様式1-3の番号を記入してください)		1	1				
1. 作業年月日		年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
2. 作業時の天候		雪	雪				
3. 暑さ指数又は日最高気温		気象庁 福岡	気象庁 福岡				
使用データ(気象庁・環境省) 最寄りの地上気象観測所		福岡	福岡				
気温(°C)又は暑さ指数(WBGT)		気温(°C) 20	気温(°C) 20				
現場始業時間(朝礼開始時間)		8 : 00	8 : 00				
現場終業時間		17 : 00	12 : 00				
待機(※)		0分	0分				
休憩		60分	0分				
小休止		30分	15分				
熱中症予防のための小休止		0分	0分				
各種法令・規則に基づく休止		0分	0分				
朝礼・KY活動・準備体操等時間		10分	10分				
準備及び後片付け		60分	60分				
資材積込・取卸		10分	10分				
集合場所から(へ)移動		0分	0分				
その他の作業(調査対象の工種以外の作業)		0分	0分				
4. 就業時間							
歩掛対象時間		6:10	2:25	0:00	0:00	0:00	
とりこわし作業 ※作業時間を「分」で入力		370分 = 6.2時間	145分 = 2.4時間	= .0時間	= .0時間	= .0時間	
"一致"をチェック		一致	一致				

R8~新規項目

・始業時刻、就業時刻が日によって異なる場合は、正確にそれらの時間を記入してください。

R8~新規項目

それぞれの実施内容の所要時間(1日の合計時間)を分単位で記入。

待機・休憩・小休止等の用語の定義は、**実施要領(共通編)の「別紙1用語の定義」を確認**のうえ、記載願います。

待機・休憩・小休止の定義は、実施要領(共通編)の「別紙1用語の定義」を必ずご確認くださいのうえ、記載願います。

自動算出

歩掛対象工種の実作業時間を入力する。時間の合計が正しければ「一致」と表示される。「不一致」が表示される場合は内容を確認し修正する。

日にちをまたぐ場合は「不一致」となるので、特記事項に「日にちをまたぐ」等と記載願います。

様式5 作業日報(長期調査表)

当該工種の作業期間における工種の労務実態、機械・器具使用実態、材料使用実態を把握。

0. 施工箇所番号(様式1-3の番号を記入してください)		1			1			
1. 作業年月日		年	月	日	年	月	日	年
		08	04	01	08	04	02	
2. 作業時の天候		雪			雪			
3. 暑さ指数又は日最高気温	使用データ(気象庁・環境省)	気象庁			気象庁			
	最寄りの地上気象観測所	福岡			福岡			
	気温(°C)又は暑さ指数(WBGT)	気温(°C) 20			気温(°C) 20			
現場始業時間(朝礼開始時間)		8	:	00	8	:	00	
現場終業時間		17	:	00	12	:	00	
4. 就業時間	待機(※)	10分			0分			
	休憩	60分			0分			
	小休止	20分			15分			
	熱中症予防のための小休止	0分			0分			
	各種法令・規則に基づく休止	0分			0分			
	朝礼・KY活動・準備体操等時間	10分			10分			
	準備及び後片付け	60分			60分			
	資材積込・取卸	10分			10分			
	集合場所から(へ)移動	0分			0分			
	その他の作業(調査対象の工種以外の作業)	0分			0分			
	歩掛対象時間	6:10			2:25			
	とりこわし作業 ※作業時間を「分」で入力	370分	=	6.2時間	145分	=	2.4時間	
"一致"をチェック	一致			一致				
(※)待機が必要になった主な理由を記載してください。		機械搬入待ち						

※一例

待機・休憩・小休止の定義は、実施要領(共通編)の「別紙1用語の定義」を必ずご確認ください、記載願います。

調査対象の工種以外の作業を実施した場合は、「その他の作業」にその時間を記入。

R8～新規項目
・「待機」の時間があつた場合は、その理由を記入。

作業において、同日に複数の作業工種を施工した場合は、工種毎のシートに分けて、作業時間が重複しないようにすること。

様式5 作業日報(長期調査表)

※一例

作業員の作業内容の未記入が多くなっています。
作業内容の把握をするため、記入をお願いいたします。

作業日ごとの出来形等を記入

5. 施工環境	施工障害の有無		無								
	有りの場合	障害の内容									
	手待ち等時間的制約の有無		無	無							
	有りの場合	手待ち時間	0.0 時間	0.0 時間							
6. 施工出来形	施工面積		30.0 m2	20.0 m2							
	平均モルタル等厚さ		10.0 cm	10.0 cm							
7. 労務											
	作業内容	職種等	作業内容	略称	年齢	経験年数	数量	単位	数量	単位	数
7-1. 準備作業	土木一般世話役	準備	A	60	g.30年以上35年未満	0.5	時間	0.5	時間		
	特殊作業員	準備	B	50	e.20年以上25年未満	0.5	時間	0.5	時間		
	普通作業員	準備	C	40	c.10年以上15年未満	0.5	時間	0.5	時間		
							時間		時間		
7-2. とりこわし ※般を破碎する小割作業を含む	土木一般世話役	とりこわし	A	60	g.30年以上35年未満	5.0	時間	2.5	時間		
	特殊作業員	とりこわし	B	50	e.20年以上25年未満	5.0	時間	2.5	時間		
	普通作業員	とりこわし	C	40	c.10年以上15年未満	5.0	時間	2.5	時間		
							時間		時間		

各作業内容に従事した作業員すべてについて記入

作業員毎の作業時間を記入

様式5 作業日報(長期調査表)

※一例

「様式2 使用機械・器具調査表」と「様式3 使用材料・消耗品調査表」に記入の番号を入力すれば、機械・材料名～型式まで自動入力されます。

自動入力

8. 使用機械器具					数量	単位	数量	単位	備考
機械番号	機械・器具名	規格	メーカー名	型式					
1	バックホウ	標準型 バケツ容量 0.5m ²	加藤製作所	HD512-7	5.0	時間	2.5	時間	
2	バックホウ	標準型 バケツ容量 0.28m ²	コベルコ建機	SK75SR-7	5.0	時間	2.5	時間	
3	大型ブレーカ	600～800kg級	古河ロックドリル	Fxj95	5.0	時間	2.5	時間	
8	ピックハンマ	質量7kg	東空販売	TCA-7	5.0	時間	2.5	時間	
9	空気圧縮機	10.5～11m ³ /min	デンヨー	DIS-110VPB	5.0	時間	2.5	時間	
						時間		時間	
						時間		時間	

作業日毎に機械の使用時間を記入

9. 使用材料					数量	単位	数量	単位	備考
材料番号	材料名	規格	メーカー名	型式					
1	仮設ロープ	φOmm	～～～	～～～	10.0	m	10.0	m	
2	ファイブライン固定用 単管パイプ	0	0	0	5.0	m	5.0	m	
3	クランプ	0	0	0	5.0	個	5.0	個	
4	エアース	φOmm	～～～	～～～	50.0	m	50.0	m	
5	チゼル	0	0	0	3.0	本	3.0	本	

作業日毎に材料の使用数量を記入

10. 摘要【特記事項】									

日にちをまたぐ場合は、特記事項に「日にちをまたぐ」等と記載願います。

様式6 1日当り歩掛調査表(短期調査表)

標準的な施工を行った任意の1日の作業状況を詳細に把握。

※一例

・作業内容毎にシートが分かれているのでご注意願います。
(未実施の作業については記入不要)

前期

作業期間中の平均的な作業を実施した
任意の3日間(前期・中期・後期それぞれ1日ずつ)
について記入

作業工程		とりこわし工(人力施工)																			
①作業年月日		令和 8 年 4 月 1 日																			
④施工箇所		1																			
歩掛	作業員番号	職種	その他の場合の具体的な作業内容	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	合計min
	1	土木一般世話役	指示																		550
	2	法面工	とりこわし																		550
	3	普通作業員	とりこわし手元																		400
	4																				0
	5																				0
	6																				0
	7																				0
	8																				0
	9																				0
	10																				0
	11																				0
	12																				0
業務	機械番号	機械名	その他の場合の具体的な作業内容	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	合計min
	8	ピックハンマ	とりこわし																		410
	9	空気圧縮機	とりこわし																		410
	10	コンクリートカッタ	とりこわし																		410
																					0
																					0
																					0
																					0
																					0
																					0
③ 使用 機械 器具																					0
																					0
																					0
																					0
																					0
																					0
																					0
																					0

例えば、開始・終了のタイミングが通常と異なる場合
(作業が定時を待たずに終了した場合、現場条件により作業時間に制限がある場合等)でも、そのことが分かるよう正確に記載をお願いします。

必ず「実施要領(共通編)」の「別紙1用語の定義」を確認のうえ、作業内容の選択をお願いします。
※待機・休憩・小休止はそれぞれ定義が異なります。

表一 作業内容

番号	作業内容	番号	作業内容	番号	作業内容	番号	作業内容	番号	作業内容
1	移動	4	準備・後片付け	7	休憩	10	各種法令・規則等に基づく休止	13	その他
2	資機材の搬入・搬出	5	監督・作業指示	8	小休止	11	とりこわし(人力施工)	14	その他
3	朝礼・準備体操・KY活動等	6	待機	9	熱中症予防のための小休止	12	その他	15	その他
								16	その他
								17	その他
								18	その他

様式7 施工概要図

施工概要図及び平面図、標準断面図について把握。

※一例

本調査は、安定処理工(自走式土質改良工)の施工状況を把握するための資料提出を求めるものです。
PDF等で別ファイルにて提出も可能です。

工事名	地盤改良工事
-----	--------

<概要図> 自走式土質改良工の適用範囲や条件がわかるような概略図を記載して下さい。(施工計画書で用いた図表の抜粋で可)

該当する図表等を貼り付けて下さい。

できるだけ機械及び人員の配置等がわかるような概要図を記入または添付してください。

※PDF等で別ファイルにして提出もOK

添付ファイル形式: JPEG形式
 ファイルサイズ: 1枚当り300kBを目安

※PDF等で提出可

<平面図> 自走式土質改良工を適用した施工範囲の平面図を記載して下さい。

該当する図表等を貼り付けて下さい。

様式8 施工状況写真

※一例

調査工種の施工状況を把握。

※工事看板を極力入れないでください。

工事名 地盤改良工事

<施工ヤード全景①>

該当する写真を貼り付けて下さい。

施工条件や工事規模が判るもの
添付ファイル形式: JPEG形式
ファイルサイズ: 1枚当り300kBを目安

<施工ヤード全景②>

施工条件や工事規模が判るもの
添付ファイル形式: JPEG形式
ファイルサイズ: 1枚当り300kBを目安

項目ごとの作業状況がわかる写真を添付してください。

※できるだけ作業員の人数がわかるような写真が望ましい。

※できるだけ工事看板、黒板等が映っていないものが望ましい。

<施工前状況>

添付ファイル形式: JPEG形式
ファイルサイズ: 1枚当り300kBを目安

<施工後状況>

添付ファイル形式: JPEG形式
ファイルサイズ: 1枚当り300kBを目安

<改良機設置 作業状況①>

該当する写真を貼り付けて下さい。

施工方法・作業編成が判るもの
添付ファイル形式: JPEG形式
ファイルサイズ: 1枚当り300kBを目安

<改良機設置 作業状況②>

使用機器が判るもの
添付ファイル形式: JPEG形式
ファイルサイズ: 1枚当り300kBを目安

様式9 アンケート

過去に取り組んだ調査対象工種の実態について把握。

※一例

問1 平成27年頃に貴社が作業した『安定処理工(自走式土質改良工)』について、当時の作業員の年齢帯を記入して下さい。(11年前の年齢とする)なお、同職種で複数人いる場合は、各人毎にご記入下さい。(MAX10人まで記載)

	職種名	当時(平成27年頃)の年齢帯
作業員1	01.特殊作業員	25歳以上30歳未満
作業員2	02.普通作業員	25歳以上30歳未満
作業員3	02.普通作業員	25歳以上30歳未満
作業員4		
作業員5		
作業員6		
作業員7		
作業員8		
作業員9		
作業員10		

問2-1 「労務」関係について、11年前と現在を比較して、どのように変化しかお教え下さい。

① 現場の作業員数	減った
② 作業員の年齢	上がった
③ 外国人労働者	減った
④ 女性作業員	増えた
⑤ 1日の作業時間	長くなった

⑥ その他に11年前と比較して大きく変化したことがございましたら下欄にご記入下さい。

○○

問2-2 「施工」関係について11年前と現在を比較して、どのように変化したか選択して下さい。(該当箇所「○」を選択/複数回答可)

- 新技術、新工法に変わった。
 - 機械の大型化(小型化)に変わった。
 - ICT施工に変わった。
 - 施工箇所の点在が多くなった。
 - 施工箇所の点在が少なかった。
 - 現場条件(昼間施工から夜間施工、安全面の配慮、施工障害)が変わった。
 - 施工数量が減った。(施工規模が小さくなった)
 - 施工数量が増えた。(施工規模が大きくなった)
 - 施工基準が大幅に変わった。
- その他(11年前と比較して大きく変化したことがございましたら下欄にご記入下さい。)

○○

問2-3 その他(自由記述)

○○

記載例 ・同じ施工規模でも契約金額が上がった(下がった)。
 ・適正な工期が設定された。(工期が短かった、長くなった。)

当該調査表の工事に限定することなく、過去に取り組んだ工事も含めて回答をお願いいたします。

- 土木工事の施工形態は、社会環境の変化、使用機械の多様化、新技術・新工法の開発など、施工を取り巻く状況の変化等に伴い常に変化しています。
- 施工合理化調査は、土木工事における労務、材料、機械の運転時間等の所要量等の施工の実態を把握するための重要な調査です。
- お手数をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力くださいますようお願い申し上げます。

